

3年道德通信

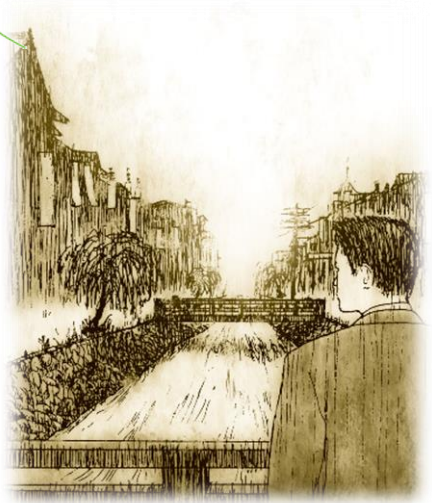
第5号

第5回『足袋の季節』

足袋を買う余裕がなく、雪の中を素足で仕事に通っていた「私」は、上役から預かった十銭玉を持って大福餅を買いに行きました。

大福売りのおばあさんに、「五十銭玉だったね？」ときかれ、「四十銭あったら足袋が買える」と思った「私」は「うん。」とうなずいてしまいます。おばあさんに「ふんばりなさいよ。」と言われ、「私」は逃げるようにその場を去ります。

時がたち、「私」はおばあさんを訪ねますが、おばあさんは既に亡くなっていました。「私」は泣けて泣けて、どうしようもない気持ちになりました。



みんなの意見

「私は泣けて泣けてどうしようもなかった。」ときの「私」の気持ちは？

- ・自分がした過ちをもう、おばあちゃんに直接謝れない。申し訳ない。
- ・お世話になったのにお礼が言えなかったことが、悲しかった。
- ・あのとき四十銭のおつりをもらわなかったら、こんなに後悔しなくていいのに。

「がんばりなさいよ」と言ったときのおばあさんの気持ちは？

- ・この子のためになるのかな？
- ・今はつらくてもなんとか乗り越えて！
- ・いつかこの罪をつぐなってほしい。
- ・このお金を無駄にしたらアカン。
- ・応援するよ。がんばって。

この物語から学んだことは？

- ・後悔する前に伝えることが大切だと思いました。
- ・誰かが言ってくれた言葉が人生の支えになる、ということがわかりました。
- ・「あのときしていたら。」という後悔をしないように生きたい。
- ・人との関わりではウソをつかず、きちんとしていたいと思いました。
- ・自分がしんどいからと相手のことを考えずに行動したら、後で後悔することになるので、相手は困らないかとか、相手のためになるかとかも考えたいと思いました。



人が持つ弱さや醜さを見つめ、それ乗り越えようとする力について考えよう。